

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 ニュースレター

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171

メール: jaera-homepage@elv.or.jp

URL: http://www.elv.or.jp/

目次

巻頭言	 1
震災支援に関する 環境大臣表彰	 1
関係省庁異動情報	 1
ELVニュース	
広報部会紹介	 2
全国講習会	 2
スクラップ市場	 3
編集後記	 3

節電の夏 ~2012~ (株)オートパーツ伊地知 伊地知 志郎(広報部会)

いよいよ暑い夏の到来です。風鈴の音が心地よく聞こえる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年も節電の夏がやってきました。ただ、昨年と違うのは、日本の原子力発電所のほとんどが休止または点検のため稼働できなくなっており、電力供給量が相当減っていることです。

多くの企業では自家発電やサマータイムの導入など、節電に積極的に取り組んでいるようです。節電は、単なる経済的観点からだけではなく、広く環境保全の観点からも取り組まなければならない問題です。国民全ての工夫や努力が求められています。例えば、普及してきた電気自動車は、深夜電力で充電し、車として使わない時は蓄電池として使えるため節電になると云う話を聞きました。我々の業界も、それぞれが知恵を出し合い、工夫して節電に取り組むべきでしょう。皆様それぞれの取り組み、工夫の成果を是非本誌に投稿して下さい。それを参考に、みんなで共有して節電に取り組む、暑い夏を乗り越えましょう。家庭では、環境家計簿等をつけてみるのもいいかもしれません。当社では電気使用量の見える化を目的に、4月にECOモニター(右図)を設置し、最大使用量を設定してその値を超えないように管理しています。

【参考】東京電力「でんき予報」

<http://www.tepco.co.jp/forecast/index-j.html>

《関係省庁異動情報》

経済産業省・自動車課

- 転入
 - 6月22日 木村 斗斗氏(課長補佐)
内閣府原子力防災防災支援チームより
 - 7月2日 小林 章一氏(係長)
大臣官房調査統計グループ構造統計室より
 - 7月9日 村上 豊氏(係長)
通称機構部参事官付より
- 転出
 - 6月14日 畑田 康二郎氏(課長補佐)
欧州連合日本政府代表部
 - 7月9日 橋本 薫氏(係長)
資源エネルギー庁資源・燃料部政策課燃料企画室へ

環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課リサイクル推進室

- 転入
 - 7月1日 平塚 二郎氏(室長補佐)
- 転出
 - 7月1日 豊住 朝子氏(室長補佐)
厚生労働省健康局水道課へ

東日本大震災の被災地支援活動に対する環境大臣感謝状受領

日本ELVリサイクル機構が東日本大震災の際に行った災害廃棄物の処理に関する支援活動への取り組みに対し、この度、環境大臣から感謝状が贈呈されました

去る7月12日、昨年の東日本大震災後の被災地支援活動を行った団体等に対して、環境大臣より感謝状が贈呈されたが、『災害廃棄物の収集運搬、処理等』の部門で、ELV機構ならびに東日本自動車解体処理協同組合を含む19団体が表彰を受けました。

この感謝状は、東日本大震災後の各団体によるボランティア活動の取り組みが評価されて三部門、計27団体に贈呈されたものです。三部門の内訳は、ELV機構等が該当する『災害廃棄物の収集運搬、処理等』を始めとして『衛生害虫の駆除及び殺菌・消毒等』で2団体、『廃棄物処理施設や浄化槽の復旧等』で8団体に贈呈されました。当日、環境省内で行われた贈呈式では、高山環境大臣政務官から支援活動全体に対する感謝の言葉があり、その後、各団体代表者一人一人に感謝状が手渡されました。

ELV機構では、贈呈式後メディアを招いて

の支援活動報告会(機構本部にて)を開催しましたところ、5社のメディアからの参加があり、DVDを上映した後、詳細報告並びに質疑応答を行いました。□(報告:事務局)



高山環境大臣政務官より感謝状を受領する河村ELV機構代表理事



今回受領した感謝状

《ELV機構広報部会のご紹介》

これまで本誌紙面にも何度か登場している機構の公式会議体の一つである広報部会を紹介します。機構に広報部会が設置されたのは数年前に遡りますが、当時は役割もメンバーすらも定かではなく、機構に関する情報授受の窓口と云うだけで、特段の活動もないまま推移してきました。前期栗山代表理事の時代、広報活動、中でも、会員と機構間の意思疎通の円滑化を最大の目的に、伊丹副代表の下で本誌並びにホームページの充実化を中心課題として取り組むことになり、メンバーも強化して現在の陣容になっています。

今回の役員改選で、新たに永田 則男氏(株永田プロダクツ・山形県)が部会長に就任し、活動の強化、充実を図ることとなりました。写真は、今期第一回目の部会の様子です。参加者は、右から、平地 健氏(有平地商会・宮城)、伊地知 志郎氏(株オートパーツ伊地知・鹿児島)、永田 則男氏、田村 幸男氏(有タムラ部品商会・福島)、伊丹 伊平氏(副代表理事)、吉川 日男氏(副代



表理事・RT部会長)、小宮山 敬仁氏(株大八商会・東京都)。なお、伊丹前部会長は、今後もアドバイザーとして部会に参加することになりました。吉川氏は当日オブザーバーとして参加されたものです。なお、今城顧問(写真撮影)は機構顧問を退き、引き続きニュースレターの編集担当を兼ねて広報部会のアドバイザーとして参加することになりました。□

(今城記)

《全国地域講習会報告》

5～6月に開催された、地域講習会の状況を報告します。

◆5月18日：北海道自動車処理協同組合・旭川支部

- * 会場 旭川自動車振興会
- * 受講者 会員 16名、会員外 12名、計 28名
- * [主催者所見] 講習会自体はスムーズに進行したが、将来的には講習内容に工夫が必要。レアメタル(資源循環)等も取り上げるべきか。

◆5月19日：秋田県自動車解体処理協同組合

- * 受講者 会員 15名

◆5月19日：北海道自動車処理協同組合・帯広会場

- * 会場 帯広地方自動車整備会館
- * 受講者 会員 12名、会員外 7名、計 19名
- * [主催者所見] 三回目の今回はこれまでの確認の意味からも有益であり、スムーズなインストラクターの進行で行われた。

◆5月22日：北海道自動車処理協同組合・函館支部

- * 会場 (有)二協自動車商会
- * 受講者 会員 4名、会員外 1名、計 5名

◆5月22日：ELV熊本協同組合

- * 会場 ホテル ニューオータニ熊本
- * 受講者 会員 21名
- * [主催者所見] 開催前には講習会の意義、効果に疑問を持つ意見もあったが、当日は受講者の意識も高く、真剣に取り組む姿が見られた。

◆5月26日：北海道自動車処理協同組合・札幌支部

- * 会場 札幌自動車整備振興会
- * 受講者 会員 35名、会員外 9名、来賓2名、計46名
- * [主催者所見] 機構本部から行政への連絡が行われておらず行政関係者の出席がなかった。インストラクターの説明技術も向上しており、特に事前のリハーサルが功を奏したものと思われる。

◆5月27日：沖縄県自動車リサイクル協同組合

- * 会場 沖縄市農研研修センター
- * 受講者 会員 15名、会員外 4名、計 19名
- * [主催者所見] 会員外参加者の募集方法を検討する必要あり。講習内容の見直しも必要。

◆5月29日：香川県自動車リサイクル協同組合

徳島自動車リサイクル協同組合 (共催)

- * 会場 サンポートホール高松

- * 受講者 会員14名、来賓(行政)2名、合計16名

- * [主催者所見] 両県の行政関係者より、それぞれの現状につきご報告いただいた。すぐ身近に迫っている気がする放射能汚染車対策問題等についての情報が望まれる。

◆6月8日：新潟廃車処理協同組合

- * 会場 新潟県三条市
- * 受講者 会員 16名、会員外 20名、計 36名
- * [主催者所見] 登録台数が増加するHV関連の情報は関心が高く、参加者も熱心に受講していた。

◆6月16日：鹿児島県ELV協同組合

- * 会場 (株)オートパーツ伊地知 会議室
- * 受講者 会員 14名

◆6月19日：静岡県自動車解体業協同組合

- * 会場 静岡市
- * 受講者 会員 15名

◆6月22日：大阪自動車リサイクル協同組合

- * 受講者 会員 34名、会員外 5名、来賓 5名、計44名
- * 会場 エル大阪

◆6月22日：大分県ELV商業組合

- * 会場 大分市内
- * 受講者 会員22名、会員外6名、来賓2名、計30名
- * [主催者所見] 冒頭、講習会の継続が会員の安全や知識向上に繋がることを強調。引き取り、フロン回収の更新時期であり、時宜を得たものとなった。

◆6月26日：宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合

- * 会場 仙台市内
- * 受講者 会員 12名、会員外 21名、来賓 1名、計34名
- * [主催者所見] 県内の全解体業者に案内状を発送した結果、機構会員は全社出席し、会員外も数多くの参加があった。終了後、ほとんどの参加者が受講内容を自社の全社員に伝えと言ってくれたのは頼もしい。

◆6月30日：滋賀自動車リサイクル協同組合

- * 会場 八日市商工会議所(東近江市)
- * 受講者 8名
- * [主催者所見] 組合組織の小さく、会員企業の規模も小さいところが多いため、講習会開催に要する経済的、人的負担が課題。

(完)

～7月第2週(13日)の鉄スクラップ動向～
 関東鉄源テnder H2平均25,766円で落札
 前回比64円上昇

関東鉄源協同組合(理事長＝渡辺淳丸和商事社長)が7月11日、鉄スクラップ共同輸出入札(テnder)を実施し、ほぼ前回並みの価格で落札した。落札価格は、前回比64円高の1トあたり25,766円だった。落札数量は23,500ト。船積期限は9月15日まで。

日本H2の直近の韓国向け輸出価格は、1トあたりFOB26,000～26,500円中心。同協組が今回落札したのはFAS25,700～25,850円の5件(合計23,500ト)で、ほぼ現在の輸出成約価格に見合う価格だ。渡辺理事長によると、「応札(13社23件、合計11万1500ト)中、13件が25,500円以上を提示」しており、「落札価格は妥当な価格」と指摘した。

また、同協組の落札数量が2万トを上回ったのは、3月(25,000ト)、5月(21,000ト)に続いて今年3回目。夏季減産の中で関東域内の需要が落ち込むため先安見通しが多く、「相場を下支えするために2万トを超える数量を落札した」と渡辺理事長は入札後の記者会見で話した。

関東地区 様子見横ばいの推移続く

関東地区の鉄スクラップ相場は様子見横ばいの推移を続けている。電炉筋の生産量は伸びていないが、14～16日の3連操が控えているため、当面は現在の入荷の流れを維持したい考えで、様子見の姿勢を維持。現時点では、電炉買値、

湾岸浜値、輸出価格が横一線と並んでいるため、相場が動く材料に乏しい。関東地区のH2炉前実勢価格は24,500～25,500円中心、高値26,000～26,500円見当。現在のH2浜値は25,500～26,000円。

東海地区 3連休控え部分高も、上伸力に乏しい状況

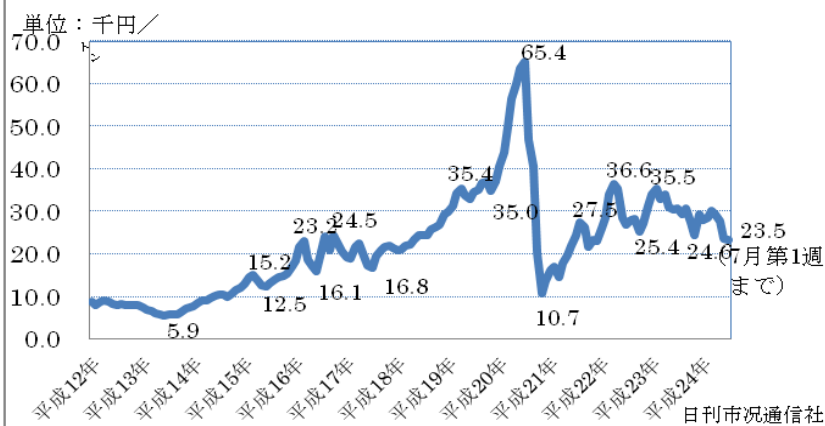
名古屋地区では一部のメーカーが10日から購入価格を500円値上げしたが、他社に目立った動きは見られず、市況は依然として様子見気配で月中旬に突入した。市中老廃スクラップは発生低調感が強まっており、業者ヤードの入荷は全般に芳しくない。滞貨玉は薄く、業者筋の在庫減が目立っていることで、月初来メーカー入荷はバラつき気味にある。東海地区のH2炉前実勢価格は25,500～26,500円中心で、前月8日以来変わっていない。

関西地区 電炉の大勢は依然として様子見姿勢

大阪地区の電炉の大勢は依然として様子見姿勢を保つ形にある。しかし、23日から大阪製鉄・恩加島工場を皮切りに、7月末からは複数電炉が炉休を予定しており、鉄スクラップ需要減は避けられない見通し。このため来週からの市況観測については先安との見方がいまだ根強い。同地区電炉のH2実勢値は26,500～27,000円(一部上値27,500円)。姫路地区のH2炉前実勢価格は26,000～26,500円見当と、6月末から変化なし。□

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、7月13日時点のもの)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



※鉄スクラップに関するこれら情報は、(株)日刊市況通信社のご厚意でご提供頂いているものです。
 同社連絡先は、大阪本社：06-6631-5651、
 東京本社：03-3864-6021 です。

7月13日の国内スクラップ炉前実勢価格

		H2		気配
関東	北関東	24,500	～ 25,500	弱含み
	南関東	24,500	～ 25,500	弱含み
名古屋		25,500	～ 26,500	弱含み
関西	大阪	26,500	～ 27,500	弱含み
	姫路	26,000	～ 26,500	弱含み

《編集後記》

- ◇ ELV機構の定期総会から一カ月強が経過した。代表理事を始め相当数の役員は新任であり、全体が機能的に稼働するようになるまではまだ暫く時間を要しよう。が、現在、機構が置かれている厳しい環境から見て、少しでも早いテイクオフが期待される。
- ◇ 厳しい環境の一つとして、このところ、自動車メーカーが「資源困り込み」とも言えるスキームの構築・普及を図っていることが懸念される。かつて業界内で話題になった某社の案件が決着を見ていない中で、今回は他メーカーによる、「資源循環協力度」による「使用済車配分」方式なるものが打ち出されている。自動車メーカー本体ではなく、自動車メーカーの系列「商社」が窓口となっているものの、メーカー自身のイニシアティブであることは明らかであろう。メーカーにとって資源の確保はライフライン確保と同じ

意味を持つことは分かるが、自動車リサイクルの担い手である我が業界にとって、使用済自動車の流通が他者の力で捻じ曲げられるようなことは到底容認できない。今後はオープンな議論が進むことを期待する。

- ◇ 去る、6月20～22日の間、リオデジャネイロで「リオ+20」が開催された。1992年の「リオ環境サミット」(UNCED)の20周年と、2002年のヨハネスブルグにおける「持続可能な発展のための世界サミット」(WSSD)の10周年を記念してのリオ+20であった。地球温暖化問題に解決の道が開かれないまま、更に新たな問題が発生しているのが現状であるが、世界は一つを実現させるための不断的努力が必要であろう。今回のリオでの会議には、我が国の自動車解体業界団体も参加して、JICAと共に、日本の自動車リサイクルについての広報活動を行ったと聞いている。次号に詳細情報を掲載したい。(編集子)